

# 平成27年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、21世紀の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次代を担う女性を育成する。 2 SSHやリーダー育成・進学指導重点推進校の取組を活かし、質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導を充実し、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成することにより、地域に信頼される学校づくりを行う。
------	---

出席者		
学校関係者	名	
生徒	名	

学 校 自 己 評 価					平成27年度目標			平成27年度評価 (月 日 現在)		
番	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度の課題と改善策			
1	◇進学校であるが、勉強だけでなく部活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事に積極的に取り組む意欲の高い生徒が多い。また、地域の高齢者施設や小学校、保育所等を訪問し福祉活動や児童支援を行ったり、ニューランド姉妹校との交流事業を行ったりもしている。教育活動全般を通じて、社会に貢献できる人間としての高い志や使命感を育成する必要がある。	豊かな人間性と高い志を持った生徒の育成	①生徒が主体的に部活動や学校行事、委員会活動等を行えるようにする。 ②地域の高齢者施設や小学校、保育所等で福祉活動や児童支援等を行う。	①生徒が主体的に部活動や学校行事、委員会活動等を行うことができたか。 ②生徒が昨年度と同数程度以上、地域の施設や学校等を訪問できたか。						
2	◇SSHは4年目となり、大学や研究機関、県内外の高校との連携も順調に推移している。一方、文科省による中間評価を踏まえ、スーパーサイエンスクラブ(SSC)活動や授業・カリキュラムの改善、2期目申請の検討等を行うことが必要である。また、SSHやリーダー育成・進学指導重点推進事業等を活用して、思考力・表現力等の向上のための研究・対策や授業改善を組織的に進めていく必要がある。	SSHの取組の拡充と改善	①北関東SSH女子高校6校連携事業の拡充を行う。 ②SSC活動や授業・カリキュラムの改善、SSH2期目申請の検討等を行う。	①6校連携事業の実施数、連携機関数等が拡充したか。 ②検討内容や生徒アンケート等の結果がどのように進展・改善したか。						
		思考力や表現力等の向上を目指した授業研究・改善	①授業力向上のための研究や取組を教科、分掌、委員会等で行う。 ②他校や外部機関と連携し、教科力向上研修会や英語研究会等を行い、授業研究・改善を進める。	①新たな研究や取組を実施できたか。 ②授業アンケート等の結果より、授業力が向上したか。						
3	◇様々な進路行事や生徒との面談などをとおして、女子高校のニーズに合わせたきめ細かい進路指導を行っている。生徒一人一人の第一志望の進路を実現するため、3年間を見通し、分掌・学年・教科・委員会が連携して組織的・効果的に取り組む必要がある。	進路情報の提供と進学実績の向上	①各進路行事や広報誌の発行等により、教職員の情報共有と生徒・保護者への情報提供を推進する。 ②3年間を見通した進路指導の研究や取組を分掌、学年、委員会等で行う。 ③進路データ、適性等を踏まえたきめ細かい指導や補習を実施し、センター試験の平均点を向上させる。	①十分な情報提供ができ、生徒第一志望の進路を実現できたか、アンケートや評議員会・懇話会の意見等から判断する。 ②進路指導目標の実現に向け十分な研究・取組ができたか。 ③合格実績目標値(現役) 国公立大学70名・早慶上理ICU40名・G-MARCH100名以上 ④2015センター試験結果と比べ向上したか。						
4	◇歴史と伝統のある熊女の生徒として、高い品格を身に付け、自らを律した行動ができるように生徒指導を展開している。全教職員の共通理解のもと、生活指導や心のケア等の対応の充実を図る必要がある。 ◇本校ホームページは、毎月50回程度の更新を行い、学校行事や部活動他、最新の情報発信に努めている。引き続き、広報活動を充実させる。	全教職員協力による生徒指導、心のケア等の充実	①全教職員による挨拶・身だしなみ・登校・完全下校指導を行う。 ②関係機関と連携・協力を行うとともに校内支援委員会を定期的実施し、生徒情報の共有と適切な指導を行う。	①全教職員による組織的な生活指導に取り組めたか。 ②個々の生徒に対し教職員の共通理解が図られ、様々な生徒の対応に取り組めたか。						
		広報活動の充実	①引き続きホームページの更新を毎月50回程度、行えるようにする。 ②学校説明会・見学会の内容を充実させる。	①ホームページの更新を昨年度と同数程度以上、行う。 ②学校見学会や説明会等の参加者が昨年度と同数程度以上か。						

学校関係者評価	
実施日	平成28年2月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	